琉球・沖縄 年中行事 ？なんでも！ Q&A

仏壇の中に壁を作るべきでしょうか？

●Answer
沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 実家の仏壇には、なぜかトートーメー（位牌）が3個あります。香炉や花瓶なども3組あります。親戚のおばさんから「昔から、仏壇にトートーメーは1個と決まっているから、中に壁を作って3個の仏壇にしなさい」とアドバイスされました。別のおばさんからは「仏壇に壁なんか作ったら、お家がふさがれて繁盛しないよ」と叱られました。どちらが正しいのですか？

（石垣市・Iさん）

A Iさん、沖縄では、どちらも正しいと思います（笑）。ウヤファーフジ（ご先祖）のことを思えばこそのアドバイスでしょうから。

沖縄のトートーメーには、1人（あるいは一組の夫婦）を祀る「一本立ち位牌」や、複数の位牌札を横に並べた「沖縄式位牌」などがあります。「一本立ち位牌」が1個＝1柱（ひとはしら）ある仏壇のことを、地域によっては「ティーチウグヮンス（一柱仏壇）」と呼びます。2柱でしたら、「タｰチウグヮンス（二柱仏壇）」。Iさんのご実家は3柱ですから、「ミーチウグヮンス（三柱仏壇）」ということになりますね。私は、9柱の「ククヌチウグヮンス（九柱仏壇）」を拝見したのが最高記録です。

親戚のおばさんの「壁を作って3個の仏壇にしなさい」というアドバイスは、「グソーヌ ジョーミチヌワカス（後生の門道を分ける）」という考え方の表れだといわれています。例えば、ウヤファーフジの法事や命日のとき、ヒラウコー（平御香）をお供えしても、その焼香が、複数いらっしゃるウヤファーフジのうちの、どなたへの敬いなのか分からないと困るので、中に壁を作ってジョーミチ（門道＝入り口のこと）を分け、受け取られる方をはっきりさせましょうという意味があるといわれています。

壁を作る方法としては、隣り合うトートーメーの間に、❶ベニア板や段ボールで、簡易的に壁を設置する方法 ❷大工さんに依頼して、本格的に壁を設置する方法があり、壁を設置する場所は、

①仏壇の最上段のみ
②仏壇の最上段と上から二段目まで
③仏壇の最上段から上から三段目まで

など多種多様です。

以上は、複数あるトートーメーに対して、1個のウコール（香炉）で焼香するときの方法です。

＊＊＊

一方、Iさんのご実家のように、3柱のトートーメーに3個のウコールがあるときには、トートーメーとウコールが、きちんと対になっていますので、どのウヤファーフジに焼香しているのかすぐに分かります。この場合、実際の壁はなくても、目に見えないヒンプン（目隠しや区切りの意）のような壁があると考えられています。そのため、壁を作るケースには該当しないとされる地域もあります。

別のおばさんからの「仏壇に壁を作ったら、お家がふさがれて繁盛しないよ」というアドバイスは、「壁を作らない方法もあるのよ」という意味で、愛情表現の一つとして、ありがたく受けとめておきましょう。

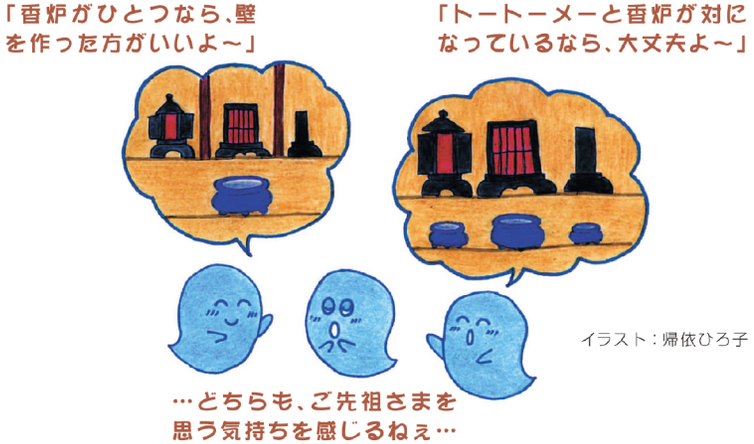
トートーメーが複数あるのは、チョーデーカサバイ（兄弟重合＝兄・弟を一緒に祀ること）や、アジカイグヮンス（預かり仏壇＝本来祀られるべきではないけれど、諸事情により一時的に祀られていること）など、各家庭によって、それぞれの事情があってのことかと思われます。

今回の回答としましては、ご実家の仏壇に壁は作らず、現状維持のままでよろしいかと思います。

＊＊＊

この、仏壇の中に「壁を作る／作らない」という考え方のように、アドバイスの内容が正反対に分かれることがあるのは、「ウヤファーフジを大切にしたい」という沖縄の人々の思いの強さにつながっていると思います。

「どの敬い方が正しいのでしょうか？」と、消去法で一部を否定して、○と×で判断するよりも、「どの敬い方が望ましいのでしょうか？」と、いったん全てを肯定して、○の中から、よりよいものを選択して「◎」と位置づけてみましょう。そうすれば、どの敬い方にもそれぞれの意味があることに気づき、沖縄の先人のジンブン（知恵）の深さを理解できるかと思います。



イラスト：帰依ひろ子

帰依 龍照 1968年岡山県出身（満48歳）／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／沖縄県内で年間多数の住宅起工式（地鎮祭）を担当しつつ、小学校～大学まで、いじめ・不登校・進学・就職に関する講演活動を行う／著書：『琉球・沖縄 儀式・法要事典 作法・心得編』県内有名書店にて発売中／最近、長男に住職の家督を譲り、前住職（ぜんじゅうしょく）のご隠居さんになりました

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。